

11月11日～12月12日
電池月間



平成13年1月1日

でんち

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話(03)3434-0261(代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

年頭のご挨拶

社団法人 電池工業会会长 安田 幸伸

謹んで新春のお慶びを申しあげます。
21世紀最初の新春を迎えるにあたりご挨拶
申し上げます。

昨年の日本経済は「景気の谷」から拡大局面に転じたと言われましたが、大手企業のリストラ、合併、倒産、それに伴う失業率の増加、個人消費の低下などが加速されて、厳しい状況が続いております。

このような厳しい状況の中ではありますが、電池業界はポータブル電子機器の普及により市場を拡大しており、特にIT関連機器やモバイル型のデジタルAV機器に使用される電池は、日本が世界の供給基地になっていることから、2000年の総出荷数は約77億個弱 前年比107%、総出荷額は約8,700億円弱 前年比104%となる見通しであります。

これを商品群別に見ますと、鉛蓄電池は自動二輪用が金額で前年を下回る以外は、再販用、産業用共に前年を上回り、鉛蓄電池全体では数量で4%金額では2%の伸びが見込まれます。

民生用小形二次電池はニッケル水素電池、リチウムイオン電池が携帯電話、ノートPC、PDAなど成長著しいモバイル型IT関連機器に使われ、さらに伸



長すると思われます。また、ニカド電池は金額で前年を大きく割り込みますが、民生用小形二電池次全體で数量は約15%、金額で約8%の伸びが見込まれます。

一方、一次電池はリチウム一次電池、酸化銀電池が昨年も好調でしたが、アルカリ乾電池が金額・マンガン乾電池は数量 金額共 前年を割り込み、一次電池全體で数量は約4%伸びますが、金額は約2~3%程度前年を下回る見込みです。

さて、本年は電池工業会発足5年目、21世紀最初の年として新たなる発展のための第一歩の年とす

べきであると存じます。

その活動の第一の課題は「環境保全・再資源化に関する活動」であります。本年4月より、いよいよ「資源の有効な利用の促進に関する法律」(通称リサイクル法)が改正・施行されます。二次電池に関して既に自動車用バッテリーと小形二次電池は当工業会が独自にリサイクル活動を進めていますが、「指定再資源化製品の製造・加工・修理・販売の事業を行う者」に対し、回収・リサイクルの義務・責任が発生するため、回収・リサイクルのシステム作りを、電池使用機器メーカー業界と連携をとりながら、関係諸官庁の指導の下、固めてまいります。

また、乾電池の環境問題においては、世界に先駆けて、1991年末に日本の乾電池は水銀0使用(無水銀化)を達成していますが、乾電池の埋め立て実験と調査研究を、世界でも類の無い規模で、福岡大学と共同実施しています。現在15年経過の2槽の解体をし、分析を行っております。

第二の課題は「標準化・調査に関する活動」であります。昨年は京都で「IEC国際電気標準会議」が開催され、二次電池全体と小形二次電池分野の総会が延べ9ヶ国約70名の出席で行われました。特に小形二次電池は日本がキー・テクノロジーを持っているだけに、今後とも電池の国際標準化に対して積極的な働きかけを行ってまいります。

第三の課題は「広報に関する活動」であります。日常生活で身近に使用している電池ですが取扱い誤りによる事故、処理方法の間違い等の問題があります。そのため当工業会では一般の方々にもっと電池のことを総合的に正しく理解・認識していただくために昨年様々な広報活動を行いました。

十一月十一日(電池の日)には東京で街頭キャン

ペーン「でんちフェスタ」を開催。電池に対する正しい理解の促進、安全で正しい取扱いの普及啓発、環境問題への意識啓発などを目的とし、来場者参加のゲーム大会など、総合的な理解を深めていただく為に、工夫をこらした内容としました。

またプロ野球界でも認知されている、「プロ野球最優秀バッテリー賞」も記念すべき第10回となり、テレビ2局で放映されるなど、内外の関心を集めました。

環境保全・再資源化にも深く関わる活動として、小形二次電池の回収システムである「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」による回収・リサイクル活動を積極的に推進いたしました。お蔭さまで加入店数も大幅に増加し全国約3万店の拠点を確保することになりました。また、ユーザー対象の「充電式電池もつともつリサイクルキャンペーン」やTVパブなどを実施し、回収実績はニカド電池で53.1t、(前年比182%)、小形二次電池トータルでは63.1t、(前年比188%)の実績をあげることができました。

このシステムを新しい回収・リサイクル団体の基盤として提案して行きたいと考えます。

21世紀では、次世代携帯電話やパソコン、インターネットに代表されるITの進化やその普及はビジネスだけでなく、私達の生活環境にも大きな変化をもたらしていくと思われます。IT技術で支えられたデジタルネットワーク社会において電池はあらゆる機器の主電源として、また、バックアップ電源として活躍すると思われます。さらに、環境問題に対しても、ますます電気自動車の進歩が期待されている21世紀、当然のことながら、その電源としての電池にも大きなステップアップが望まれています。「電池」に対する期待、要請が全世界的に高まる今、夢の広がる未来に向けて、会員各社と電池工業会のますますの発展と、関係業界、皆様のご繁栄とご多幸を祈念し、今世紀初めの年頭の挨拶とさせていただきます。

2001年 通商産業省機械情報産業局長 年頭所感

通商産業省機械情報産業局長 太田 信一郎

2001年の新春を迎え、
謹んでお慶び申し上げます。

我が国経済は3四半期連続でプラス成長を実現するなど、生産や企業収益を中心に自律的回復に向けた動きが継続しておりますが、一方で雇用や個人消費はなお厳しい状況を脱しておらず、引き続き景気動向を注視していくことが必要な状況にあります。こうした中で、「ものづくり産業」の中核として戦後一貫して日本の経済成長の牽引役を果たしてきた自動車、産業機械を始めとする機械産業と、既存産業の効率化を通じて生産性の向上をもたらし、かつネットワークを利用した新たなビジネス形態や雇用を創出する情報産業は、共に日本経済の命運を担う重要な産業であり、引き続きこれら産業を中心に経済実態を細心の注意をもって見守っていくとともに、気を引き締めて様々な政策課題の克服に向け邁進していく所存です。

政府といたしましても、我が国の景気を安定した自律的回復軌道に乗せて盤石の状況を固めるとともに、多様な情報と個性が沸き立つ21世紀の知恵の社会を構築することを目指して、昨年10月に「日本新生のための新発展政策」を閣議決定しました。今時の経済対策は我が国が21世紀においても、世界経済の主要なプレーヤーであり続けるための構造改革と意識改革の方向を明確に示しております。

これを踏まえて編成された平成12年度補正予算



には、IT革命の推進を図るべく、電子政府の実現や高齢者・障害者向けのIT機器の開発を目指すITバリアフリー・プロジェクト等が盛り込まれており、環境問題への対応を図るべく、使用済み自動車のフロン回収・処理対策等が盛り込まれております。これらの施策を着実に実行することで我が国経済がその潜在的能力を最大限に發揮できる環境が整備され、ひいては中長期的により高い経済成長を達成することができるものと考えております。

1月6日の中央省庁再編により通商産業省は新たに経済産業省へと生まれ変わりますが、再編に伴い機械情報産業局の所管である機械産業と情報産業はそれぞれ製造産業局と商務情報政策局に移管されることとなります。しかしながら新部局移管の先後を問わず政策課題は山積しており、21世紀という知恵の時代に相応しい行政の実現を図るべく、具体的には以下の5つを中心様々な政策課題に取り

組んでいく所存です。

まず第一に、世界的規模での潮流となっている情報通信技術による経済・社会の変革、いわゆるIT革命への対応です。五年後に我が国が世界の情報通信最先端国家に生まれ変わることを目指し、昨年11月末にIT戦略会議が策定したIT基本戦略においては、重点政策分野として、①超高速ネットワークインフラ整備及び競争政策、②電子商取引ルール、③電子政府の実現、④人材育成の強化が提示され、それぞれの分野についての基本的考え方、目標、推進すべき方策が示されております。

そこで以上の重点政策分野を踏まえ、低廉で高品質なネットワークが提供されるための競争環境の整備のあり方について検討するとともに、①契約成立時期の明確化など電子商取引の特質に応じた新たなルールを定める法律案の次期通常国会への提出、②行政ICカードの導入や情報システム開発に係る評価指標の策定・導入、③資格制度の国際標準化を通じた情報化人材育成等の施策を講じてまいります。また、IT基本法に基づく「重点計画」の策定・実行等に積極的に貢献することによって、全ての国民がデジタル情報を基盤とした情報・知識を共有し、自由に情報を交換できる社会が実現するよう努力している所存です。

第二に、我が国の生命線とも言うべき経済力の源泉をなす「ものづくり産業」の発展基盤を確固たるものとしてまいります。我が国製造業が、幅広い産業で利用される製品を供給し、これを通じて我が国産業全体の国際競争力を向上させる鍵であるとの認識に立ち、ものづくりの強みを発展・向上させることを目指したデジタルマイスター・プロジェクトや次世代の半導体に必要となる高度な加工技術の開発等を進めるとともに、部品・機械システムに係る基準の国

際化を図ってまいる所存です。

第三に、環境への負荷を可能な限り最小化するべく、循環型経済社会の構築を目指し、環境問題を内部化する取組を進めてまいります。具体的には、まず家電リサイクル法の本年4月1日の本格施行に向け、小売業者や消費者に対する制度の周知徹底を図ってまいります。加えて資源有効利用促進法に基づき、使用済みパソコンのリデュース・リユース・リサイクルに関する有効なシステムを構築してまいります。また、自動車のリサイクル対策については、使用済み自動車の逆有償化の状況のもとで、リサイクルの高度化及びその適正な処理の確保に向け、法制化も視野に入れた検討を進めており、今年度中を目途に制度化の必要性を含めた基本的な考え方及びシステムの基本的な枠組みの案を得ることにしております。さらに、フロン回収については、家電リサイクル法に基づき家電製品からの回収を実施するほか、使用済み自動車の処理に伴うカーエアコン及び廃棄される業務用冷凍空調機からの回収を促進してまいります。

第四に、航空機・宇宙産業分野において革新的な基盤技術開発に取り組んでまいります。具体的には、国際的な航空機産業の構造変化に対応し、我が国航空機産業の一層の高度化と我が国主導の機体開発の早期実現を図るため、超音速機用エンジン、複合材料等の先進分野の技術力を強化し、世界に提供しうる我が国独自の技術基準の確立を目指してまいります。またロケット産業を始めとする大規模システムの開発を伴う産業分野において、信頼性が高く、低コスト・短期間の開発を可能とするため、システム設計・インテグレーションを高度化する研究開発を行うことにより、これら産業の基盤強化を実現してまいります。

第五に、社会基盤たる基準・認証制度の一つである計量制度に関して所要の見直しを行ってまいります。現在、社会経済環境の変化に伴い、従来は想定されていなかった極微量物質の計量ニーズ等が高まっており、その適正な計量の実施の確保のため、計量証明事業者のシステム管理に関する認定制度を導入するとともに、極微量物資等の計量において使用される計量単位の見直しその他必要な規定の整備等の措置を講じてまいる所存です。

今年はいよいよ新世紀に突入する画期的な年です。新世紀の最初の10年に輝かしい繁栄の歴史を刻む

ことができるか否かは、以上のような施策の着実な実施と90年代の取組についての適切な評価と反省の下、我々のもてる潜在的な能力を余すことなく引き出すことが出来るかに否かにより決するといつても過言ではありません。公的分野の合理化・効率化の要請を十分に踏まえ、中長期的な経済発展を目指して国民一体となって様々な困難の克服に向け取り組んでいく必要があると固く信じているところであります。

最後になりましたが、皆様の新年の御多幸を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。



平成12年11月、二次電池部会開催

平成12年11月29日(水)午後2時半より、機械振興会館、(6S-1会議室)において山崎部会長(日本電池(株)専務取締役)を議長に、平成12年度11月の二次電池部会が開催された。

冒頭に山崎部会長から、「本日の二次電池部会は鉛リサイクルの問題に絞っての部会であり、鉛5社の部会として集まつてもらった。十分なる審議をお願いしたい」旨の挨拶があり、新任の部会委員2名の自己紹介後、審議が開始された。

事務局連絡として、木村専務理事から、次の3点の報告がなされた。

(1) 平成12年10月までの工業会全般の電池の生産状況と販売状況の紹介があり、電池全般での生産数量は108%、売上は104%の見込みであり、その中で、鉛電池は生産、販売とも103%で、ようやく不況脱出の兆しがみえてきた。

(2) 韓国におけるリチウム電池のリサイクル問題で、日本での実状調査で韓国電池研究組合が来社された。尚デンマークでの鉛電池の製造、販売中止の検討を進めている。

(3) 来年度の電池工業会予算策定を間もなく進めるが、委員会組織の簡素化、効率的運用等により、今年

度の20%削減を目指す
この説明に対し、二次電池部会としては特に(3)の検討は、
歓迎の意向表明がなされた。

本題の二次電池のリサイクルシステムについては、二
次電池リサイクル委員会の日置委員長から、先ず現状認
識の説明がなされた。

これによると、これまでの鉛リサイクルシステムは6年前
からスタートした鉛リサイクルプログラムに沿って、回収率
が100%を上回るレベルで推移し、回収した鉛の再利用率
も97%と、ほぼ全量、電池メーカーが再利用している状
況にきている。しかし、そのシステムは電池メーカーのバック
アップによるリサイクルシステムであり、高額の再生鉛利用で、
国際競争力を失いつつあるなど、歪みも出てきていると
のこと。

今年6月に資源有効利用促進法が制定され、指定再
資源の指定を受ければ、現在の抱えている問題の打開

が図れる見込みがあり、二次電池リサイクル委員会では
その可能性に検討を進めており、その検討方向について
部会に了承を求める提案がなされた。

各種、質疑応答、意見交換の結果、二次電池部会から次
の指示がなされた。

(1) 二次電池リサイクル委員会が新方式を検討するた
めに、通産省等の関係先との働きかけを、積極的に
進めることに対しては了承された。

(2) 新リサイクルシステムについては、更に詳細な詰め
を進め、最適システムにしほって部会に提案のこと。
以上の指示を受け、二次電池リサイクル委員会において、
更に詳細な詰めの検討を進めることになった。

その他、事務局から、年明け早々の理事会、賀詞交歓
会に対し、二次電池部会関係からの活動報告案の提示
があり、それぞれ、部会委員で目を通し、意見をいただくこ
とに決まり、無事終了した。

日米電池業界の一層の連携強化を！ —米国PRBA会長 イングランド氏が来会—

この11月6日、米国的小形充電式電池工業会(PRBA)
の会長と電池回収団体(RBRC)の副社長が、今後の協
力関係の強化を目的に、電池工業会を訪問した。2000年
の当工業会・新体制と連携し、更に友好的な関係を築い
ていきたいとの表明があった。

また、現下の重要な案件である「国連の危険物輸送規制」
や、RBRCがNiMH電池やLi-ion電池を対象とした「新回
収プログラムの展開」では、日本の国内対応にも役立つ
よう、両業界が共に手を携えて望ましい成果を目指し、互
いに努力していく事を約束した。

当工業会から、木村専務理事、及び小形二次電池部会・
海外環境委員会の高尾委員長(三洋電機・環境CS部・課長)

及び国際関係の事務局担当、藤本部長が対応した。

1.まず、RBRCのMr.ミラード副社長が、拡充する米国・電
池リサイクルプログラムの全容を紹介した。

- (1)ニカド電池の回収プログラムを、さらに充実強化
 - ・現在、プログラムの加入会員は機器メーカを中心には
323社。北米ニカド市場の93%をカバー一箱当たり1万人
を対象とした回収箱を、米国とカナダに3万箱(3億人向け)
を置き、宅配便(UPS)で収集。
 - ・回収量(トン)は年々向上:1400(1996)、1720(1998)及び
1830(2000)。
 - ・RBRCの社員は15名。全米の1ヶ所(ロス、ミネアポリス、
アトランタ)に、お客様窓口を設置し、プログラムのあらゆる

相談に対応。4月26日を全米における「電池リサイクルの日」と制定し、リサイクルを促進。

(2)新たに、NiMH電池とLi-ion電池を対象に、プログラムを拡大

- ・9月の役員会で承認され、2001年1月からスタート。ライセンス料をこれ迄の重量ベースから、Wh(エネルギー)ベースに変更。
- ・1Wh当たりの料金は、NiMHとLi-ionで0.54円、小形Pbは、0.1円、NiCdは、1.34円。(1ドル=108円換算)
- ・回収量の拡大に備え、処理施設はこれ迄のInmetco社だけでなく、新たな処理プラント(オハイオ州 SNAMとKBIのジョイントベンチャー)を建設。
- ・日本のBAJ推奨のカラー・コーディングを、RBRCのマークに採用。

(3)その他、プログラムを適用しない対象として、火災等を考慮した場合、定常輸送を飛行機に頼るような地域(ハ

ワイ州とアラスカ州)を、また学校を通じたプログラムについても同じ理由で、今のところ実施していないとの事であった。

2.一方、PRBAの会長・Mr.イングランド氏から、リチウム系電池の航空輸送規制に関し、当工業会の絶大な協力に対し深甚なる感謝の表明があった。

・特に、米国政府(DOT)や専門コンサルタントに対する、法的処理に必要なFundingへの協力、また当工業会の代表団メンバーによる日米合同作業グループ(JWG)の積極的な活動は、米国政府との窓口を担当するPRBAの顧問弁護士、Dr.ワインバーグ氏も極めて高く評価している旨、紹介があった。

次回は、米国で交流を図る事を確認し、友好的な雰囲気の中で話し合いを終了した。

業界動向

*松下電池工業 大阪工場内に見学者用ショールームを新設した。アルカリ乾電池を中心に電池に関する諸情報が展示されている。

(11月1日付、電波)

*三井鉱山 リチウムイオン二次電池用に、従来の二倍以上の放電容量を確保した金属系負極材を開発、本年11月にサンプル出荷を開始へ。(11月6日付、日経産業)

*通産省 改正リサイクル法の施行に向け、具体的な素案を産業構造審議会で提示した。素案では、使用済み製品の分別収集の容易化を図る為、指定表示製品に新たにリチウムイオン、ニッケル水素、小形シール鉛の各二次電池が適当と記載されている。

(11月7日付、化学工業日報)

*田中化学研究所 ニッケル水素蓄電池の正極材であるコバルトクロート水酸化ニッケルの生産能力を本年度中に倍増へ。

(11月10日付、化学工業日報)

*電池工業会 11月11日の電池の日に電池の啓蒙を目的に、本格的な記念イベント「でんちフェスタ」を池袋サンシャインシティで開催した。会場は終日親子連れでにぎあう。(11月11日付、電波)

*電動ハイブリット自転車 電動ハイブリット自転車の新製品発表が関係各社で始まる。今年度は前年度に比べ7%増の16万台以上の内需が期待されている。

(11月11日付、電波)

*ソニー 単三形ニッケル水素蓄電池付の急速充電器セットを12月から発売、二次電池製品のラインアップを強化へ。(11月15日付、電波)

*松下電池工業 タイ松下電池で2001年2月から単三形アルカリ乾電池の生産開始を発表。これにより、アルカリ乾電池の生産は、日本、米国、ベルギー、ブラジルと合せ五箇所となる。

(11月23日付、日刊工業&電波)

*NECモバイルエナジー 電気自動車市場に、大型化をしたリチウムイオン二次電池での参入を発表。早ければ2001年度にはサンプル出荷が予定されている。

(11月23日付、日刊工業)

*三洋電機 脈拍、体温を計測出来るペット型ロボットとPHS回線を介して、医療機関と双方方向にやり取りをする在宅健康管理システムを開発。2001年度中の商品化が予定されている。

(11月24日付、日経産業)

*三洋電機 携帯電話向けの需要に対応、リチウムイオン二次電池の生産を北米(メキシコ)で来年から開始、2003年には年6千万個の生産を予定中。

(11月24日付、電波)

又、同理由で、リチウムイオン二次電池の生産拠点を中国(北京)に新設、2005年には350~400万個/月の生産を予定中。これにより、リチウムイオン二次電池のグローバル生産体制は整備された事になる。

(11月29日付、日経産業&電波)

*YUASA 産業用、自動車用の鉛蓄電池のアジア生産を大幅拡大。日本への逆輸入を含め、世界に対してのグローバルな供給基地としての活用を目指す。

(11月30日付、日刊工業)

平成12年 11月度の電池工業会活動概要

部会	11月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
そ 特 別 の 会 他 議	4日(土)	日本時計協会 TC114/WG1協議会議と合議	*ISO114の規格とIEC電池規格の関係で時計用二次電池を協議
	6日(月)	米国・PRBA、RBRCの会長・副社長との会議	*RBRC新回収プログラムの紹介とUNDOT対応の協力体制確認
	11日(土)	でんちフェスタ	*池袋サンシャインシティーで本格的な電池の啓蒙イベントを開催
	28日(火)	二次電池部会(鉛5社)	*二次電池リサイクル(委)の中間報告ヒアリング
		容器包装識別表示WG	*識別表示の家電製品協会ガイドライン案を検討
	29日(水)	バッテリー賞表彰式	*プロ野球セ・パ優秀バッテリー賞の表彰式
	30日(木)	平成13年度JIS公募受付〆切り	*原材料規格:電解二酸化マンガン、アセチレンブラックを含む数件を応募
二 次 電 池 部 会	8日(水)	小形鉛分科会	*IEC関連の今後の対応について。高温加速寿命試験方法について
	10日(金)	自動車電池委員会	*H12年度上期の活動成果と下期の活動計画ヒアリング
	10日(金)	二次PL委員会	*二次電池の安全ガイドブック原稿の詰め
	14日(火)	自動車鉛分科会	*IEC国際会議(11/7、8:ベルギー/ブラッセル)の報告。共通部品の変更
	15日(水)	電気車鉛分科会	*JIS改正案作成方法についての勉強会。安全ポスターの校正
		二次資材委員会	*H12年度上期の鉛買付量の評価と確認
		(産)リサイクル分科会	*懸案事項の審議
	21日(火) ~22日(水)	据置鉛分科会	*IEC国際規格案(制御弁式鉛蓄電池)へのコメント審議。日置電機(株)訪問
	22日(水)	(二次、小型二次、一次)PL委員会	*通産省、製品評価センター大阪支所、見学
	26日(日)	自動車用電池技術サービス小委員会	*電池工業会ホームページ掲載内容の詳細審議。
	27日(月)	HEV用電池分科会	*技術動向調査内容、分担スケジュールの討議、
		(自)リサイクル分科会	*懸案事項の審議
	29日(水)	(自)市販小委員会	*懸案事項の審議
		EV小委員会	*海外動向調査の報告。電動車両協会派遣委員の見直し
小 形 二 次 電 池 部 会	9日(木)	リチウム系・全電池に関するVTCP説明会	*日米共同取り組みの推進方法について(17社45名)
	10日(金)	米国PRBAとの電話会議	*PRBA/NEMA/BAJのポジション・ペーパー及びDOT会議の報告
	15日(水)	VTCPに関する運輸省航空局との会議	*日米共同プログラムの報告と航空機連合協会への徹底要請
	17日(金)	産電技術サービス分科会	*蓄電池設備定期点検リーフレット案検討他
	17日(金) ~18日(土)	リチウム二次分科会	*IEC規格(統合、安全、組電池)の継続審議他
	20日(月)	UN-T分科会とWGの合同会議	*BAJ総合体制の確認と国連委員会への準備について
	21日(火) 広報委員会	海事検定協会との会議	*VTCPプログラムの報告と12月国連本委員会の準備について
		ニカド/ニッケル水素分科会	*リサイクルキャンペーン結果と経年比較による収集量(効果)の確認
	22日(水)	航空危険物輸送国内対応委員会	*12月国連本委員会向け日本政府のまとめ(リチウム電池含む)
		小形二次電池技術委員会	*分科会報告にてIEC規格審議状況、JIS公募、国際規約関連報告
	28日(火) ~31日(?)	ウエステック2000出展	*二次電池リサイクルの啓蒙とりサイクル協力店クラブへの参加要請
	29日(水)	充電器分科会	*条例改定申請案検討／安全指針検討他
一 次 電 池 部 会	11日(土)	中央共同募金会	*単三形アルカリ乾電池3万本を社会福祉施設に募金会を介して寄付
	15日(水)	器具技術委員会	*日本電球工業会と協議及びKGS規格のSBA規格化案件を審議
	16日(木)	IEC/規格小委員会	*JIS規格制定や国際規格及び時計協会の課題審議など
	22日(水)	広報委員会	*でんちフェスタ、手作り乾電池教室等の反省と今後の対応について協議
	30日(木)	PL委員会	*玩具メーカーと情報交換、電池とりサイクルの啓蒙と過放電防止を要請

新製品ニュース

業界初 用途に応じて2つの明るさを選択 ツインビームヘッドライトを発売 万一の豆球切れにも即切り替え可能

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、1つの反射鏡に明るさの異なる2つの豆球が付いた「ツインビームヘッドライト」を12月1日から発売する。

[特長]

- 1.ハイビームとロービームのツインビーム搭載
 - ・用途に応じて、明るさ優先のハイビーム(約1000ルクス・連続約5時間使用可能)か、使用時間優先のロービーム(約250ルクス・連続約18時間使用可能)かをスイッチで選択することができる。
- 2.低温特性に優れたりチウム電池(-30℃まで使用可能)と、入手が容易な単3乾電池どちらも使用できる。
- 3.照射ムラが少ないスパイラル反射鏡を採用
 - ・反射鏡面のらせん状の凹凸がムラの少ない光を実現した。



交通トラブル防止 かしこいサイクルセンサーテールライトを新発売 夜走れば自動点滅

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、夜間、自転車で走行すると振動センサーと光センサーの働きで赤色に自動点滅し、止まれば自動消灯する「サイクルセンサーテールライト」を12月1日から発売する。

本製品は、自転車のシートステーに簡単に取り付けられ、後・横方向へ存在アピール、自動車などとの交通トラブル防止に役立ちます。特に、通学や通勤、塾通いの多い自転車には安全性向上に繋がります。

[特長]

- 1.振動センサーと光センサーで自動点滅
 - ・暗い時に走り出すと、明るさと振動で自動点滅。止まると7~20秒後に消灯。
- 2.大型リフレクターを採用
 - ・電池切れの場合でも大型リフレクターの採用により、自動車などの後方向からの光をよく反射し、存在をアピールする。
- 3.単4形アルカリ乾電池2個で200時間の長寿命
 - ・1日20分(週5日使用時)で約2年間の長寿命。



アルカリ乾電池「Gシリーズ」発売 従来品比24%長持ち



FDK(株)(社長 鈴木 惟司)は同社従来品に比べて12~24%長持ちするアルカリ乾電池「Gシリーズ」を2001年2月から発売する。

乾電池の用途がデジタルカメラやPDAなど大きな電流消費を必要とする機器に広がる中で、これらデジタル&モバイル機器に、大電流を安定して提供するアルカリ新シリーズとして商品化した。

Gシリーズは、単1から6Pまで、フルアイテムを揃えた。LR20(単1)同14(単2)は、正極材料の改良、正極合成剤組成の最適化、充填容量の増大により、同社従来品に比べて放電性能を12%アップした。LR6(単3)LR03(単4)は、封口ガスケットの材質をポリプロピレン製からナイロン製に変更して耐熱性能を向上したほか、同ガスケットの形状を変更して従来品より体積を25%低減。さらに電池の有効内容

積を従来品より約3%アップするなどにより、放電性能をLR6で21%、同03で24%アップした。

新シリーズはパッケージにも工夫を加え、使用する電池を1個ずつ取り出せるセパレートプリスターを開発、採用し、これにより未使用品がひと目でわかる。4個、6個パックにはスライドタイプのプリスター・パックを探用し、携帯に便利な電池ケースとしても使える。ジャケットデザインは高性能イメージとグレード感を表現するとともに、販売店の店頭における視覚的なインパクトを重視した新デザインとした。高級感を出す黒と、エネルギーッシュな赤でデザインを構成している。環境にも配慮し、新シリーズ全アイテムで脱塩ビ化を実現したほか、スライド・プリスターでは紙とフィルムを分別しやすくし、また、包装材料にはすべて再生紙を採用した。価格は、従来のCシリーズと同等に設定した。

ホームページ紹介

日立マクセル株式会社(社長 赤井 紀男)は新たにホームページを開設した。

アドレスは <http://www.maxell.co.jp/purchasing>

8月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成12年8月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	单 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	577,448	69,351	103%	105%	4,763,915	556,214	113%	108%
全電池合計	576,248	67,728	103%	105%	4,754,822	543,592	113%	108%
一次電池計	400,657	14,529	101%	94%	3,282,540	122,133	108%	104%
マンガン乾電池計	97,551	2,156	78%	73%	868,712	19,515	96%	86%
单一	11,337	602	77%	74%	98,291	5,334	88%	87%
単二	6,538	240	75%	70%	70,076	2,609	101%	96%
単三	50,499	859	72%	68%	438,638	7,556	89%	77%
その他	29,177	455	94%	85%	261,707	4,016	115%	99%
アルカリ乾電池計	123,363	6,737	101%	95%	989,378	54,460	109%	104%
単三	72,574	3,422	103%	95%	586,791	28,037	107%	101%
単四	31,905	1,715	100%	96%	265,464	14,399	119%	114%
その他	18,884	1,600	99%	94%	137,123	12,024	101%	99%
酸化銀電池	84,199	989	130%	116%	638,872	7,891	108%	101%
リチウム電池	91,138	4,476	113%	104%	754,001	38,753	126%	118%
その他の乾電池	4,406	171	98%	77%	31,577	1,514	98%	83%
二次電池計	175,591	53,199	107%	109%	1,472,282	421,459	123%	109%
鉛電池計	4,129	13,605	112%	106%	31,267	97,860	107%	101%
自動車用	2,126	8,157	105%	104%	15,321	53,725	105%	102%
二輪用	461	841	117%	107%	3,799	7,039	105%	95%
小形シール	1,326	1,275	119%	83%	10,438	10,266	111%	102%
その他	216	3,332	138%	125%	1,709	26,830	116%	100%
アルカリ電池計	131,496	15,228	101%	94%	1,133,959	131,445	121%	107%
完全密閉式	54,681	6,005	105%	91%	417,964	47,189	105%	92%
ニッケル水素	76,797	8,962	98%	97%	715,846	81,194	133%	118%
その他のアルカリ電池	18	261	113%	94%	149	3,062	106%	107%
リチウムイオン電池	39,966	24,366	132%	122%	307,056	192,154	135%	116%
器具計	1,200	1,623	103%	99%	9,093	12,622	99%	91%
携帯電灯	717	650	95%	102%	5,567	5,143	106%	98%
電池器具	483	973	118%	97%	3,526	7,479	90%	86%

8月度電池輸出入実績(大蔵省貿易統計)

(平成12年8月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	輸 出				輸 入			
	单 月		1月～当月累計		单 月		1月～当月累計	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
全電池合計	309,200	36,257	2,694,935	303,989	27,840	3,139	264,733	26,645
一次電池計	156,567	3,445	1,428,308	31,550	22,466	622	218,313	5,788
マンガン	41,985	373	408,538	3,473	5,163	74	68,239	954
アルカリ	23,722	446	235,669	4,121	15,442	361	136,974	3,065
酸化銀	28,991	361	266,882	3,386	41	2	402	18
リチウム	56,440	2,189	492,506	19,655	1,278	58	9,152	695
空気亜鉛	2,234	36	14,604	265	230	11	2,354	95
他の一次	3,196	40	10,109	650	312	115	1,192	962
二次電池計	152,632	32,812	1,266,627	272,439	5,374	2,517	46,420	20,857
鉛蓄電池	672	895	6,051	8,423	414	1,099	3,806	8,830
ニカド	45,279	4,081	343,362	33,110	1,188	694	10,262	4,157
ニッケル鉄	0	2	908	87	6	7	8	13
ニッケル水素	60,344	7,300	581,866	67,326	—	—	—	—
リチウムイオン	33,213	18,252	234,936	145,197	—	—	—	—
その他の二次	13,124	2,282	99,504	18,296	3,766	717	32,344	7,857

9月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成12年9月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	单 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比	数 量	金 額	数 量 前年比	金 額 前年比
電池・器具総合計	661,369	78,472	101%	101%	5,425,285	634,686	111%	107%
全電池合計	660,289	76,941	101%	101%	5,415,111	620,533	111%	107%
一次電池計	469,045	17,231	99%	91%	3,751,585	139,364	107%	102%
マンガン乾電池計	121,057	2,596	79%	68%	989,769	22,111	94%	83%
単一	12,875	694	68%	65%	111,166	6,028	85%	83%
単二	7,874	300	69%	66%	77,950	2,909	97%	92%
単三	62,628	1,045	74%	65%	501,266	8,601	87%	75%
その他	37,680	557	96%	83%	299,387	4,573	112%	97%
アルカリ乾電池計	144,545	8,064	95%	91%	1,133,923	62,524	107%	102%
単三	91,181	4,524	99%	99%	677,972	32,561	106%	101%
単四	35,230	1,885	100%	96%	300,694	16,284	116%	112%
その他	18,134	1,655	71%	72%	155,257	13,679	96%	95%
酸化銀電池	92,526	1,088	128%	112%	731,398	8,979	110%	102%
リチウム電池	106,553	5,288	122%	106%	860,554	44,041	126%	116%
その他の乾電池	4,364	195	85%	83%	35,941	1,709	96%	83%
二次電池計	191,244	59,710	106%	104%	1,663,526	481,169	121%	109%
鉛電池計	4,610	16,719	97%	98%	35,877	114,579	106%	101%
自動車用	2,550	9,669	95%	90%	17,871	63,394	103%	100%
二輪用	481	884	105%	103%	4,280	7,923	105%	96%
小形シール	1,301	1,334	94%	85%	11,739	11,600	109%	99%
その他	278	4,832	118%	123%	1,987	31,662	116%	103%
アルカリ電池計	143,142	16,777	102%	96%	1,277,101	148,222	119%	106%
完全密閉式	50,357	5,376	90%	82%	468,321	52,565	104%	91%
ニッケル水素	92,756	10,788	110%	107%	808,602	91,982	130%	117%
その他のアルカリ電池	29	613	85%	77%	178	3,675	102%	101%
リチウムイオン電池	43,492	26,214	125%	115%	350,548	218,368	133%	116%
器具計	1,080	1,531	99%	101%	10,174	14,153	99%	92%
携帯電灯	592	587	86%	88%	6,159	5,729	103%	97%
電池器具	488	944	121%	111%	4,015	8,424	93%	88%

9月度電池輸出入実績(大蔵省貿易統計)

(平成12年9月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	輸 出				輸 入			
	单 月		1月～当月累計		单 月		1月～当月累計	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
全電池合計	377,833	41,610	3,072,768	345,599	26,029	2,980	290,762	29,626
一次電池計	213,621	4,645	1,641,929	36,195	21,928	761	240,242	6,549
マンガン	63,437	499	471,976	3,972	6,171	90	74,410	1,044
アルカリ	32,179	678	267,849	4,798	14,018	364	150,992	3,429
酸化銀	34,787	442	301,668	3,828	50	1	452	19
リチウム	73,075	2,772	565,580	22,426	1,103	99	10,256	793
空気亜鉛	2,376	50	16,979	315	534	18	2,888	113
他の一次	7,767	204	17,877	855	53	189	1,245	1,150
二次電池計	164,212	36,965	1,430,839	309,404	4,100	2,219	50,520	23,077
鉛蓄電池	789	1,200	6,840	9,623	376	1,014	4,182	9,844
ニカド	40,892	3,770	384,254	36,880	1,288	604	11,550	4,762
ニッケル鉄	60	7	969	94	0	0	8	13
ニッケル水素	74,988	8,770	656,854	76,096	—	—	—	—
リチウムイオン	36,345	20,808	271,281	166,005	—	—	—	—
その他の二次	11,137	2,409	110,642	20,705	2,437	601	34,781	8,458